

全日本空輸株式会社
ANA ウイングス株式会社
株式会社エアージャパン

飲酒に関する航空法等の遵守の徹底について(報告)

先般 ANA グループ運航乗務員の飲酒に起因し、運航便 5 便を遅延させました。当該便のお客様をはじめ、関係者の皆さまに多大なるご迷惑をお掛けしましたことを、改めて深くお詫び申し上げます。

その後の当該事案の要因分析により、運航乗務員の飲酒に関し、以下の問題点ならびに課題を把握しました。

<問題点>

- (1) (制限時間)乗務開始時刻 12 時間前を超えて飲酒した
- (2) (飲酒量)飲酒量を自己のコントロール下に置いていなかった
- (3) (相互監視)ANA の運航乗務員が同席していたにも関わらず、注意することなく飲酒を続けた

<課題>

- (1) (自覚の欠如)運航乗務員としての、飲酒制限時間と飲酒量のコントロールに対する意識と自覚の欠如
- (2) (組織的なサポート不足)アルコールに関する理解を促進・向上させるための、教育・啓発・物品貸与・カウンセリングの機会などの、会社としての組織的なサポートが不足
- (3) (基準が未統一)グループ内や事業所毎の、アルコール検査手法や規程などのバラつき

これらを踏まえ、ANA 便を運航する全日本空輸株式会社、ANA ウイングス株式会社、株式会社エアージャパンは、3 社合同で下記の通りの措置を講じることとし、本日 11 月 16 日国土交通省へ報告いたしました。

運航乗務員をはじめとした航空機の安全に携わるグループ社員の、アルコールに関する自己管理に向けて会社として組織的に支援し、不正の余地を残さないチェック体制の構築などの再発防止策を講じること、安全運航を堅持するとともに、グループ一丸となって信頼回復に努めてまいります。

記

(1)運航乗務員

①自己管理を促進するための措置

内容	時期
飲酒量について社内規則への明文化: 乗務開始 12 時間前以降の時間制限と合わせ、適度なアルコール摂取量はアルコール 2 単位*までである旨社内規則に反映します	12 月から反映
日常使用できる呼気検査器の貸与: 運航乗務員が自身のアルコール体内分解能力を日常的に把握することで、自己管理意識を向上させることを目的として、ポータブルタイプ呼気検査器を全運航乗務員へ貸与します	12 月以降順次貸与を開始
アルコール教育プログラムの見直しと再徹底	12 月以降開始
アルコールに関するカウンセリング窓口のグループ社への展開と利用促進	2019 年 4 月を目途に開始

*アルコール 1 単位…純アルコール 20gを含む酒類のおおよその量。例)ビール 500ml 缶 1 本

②乗務前アルコール検査の強化

内容	時期
検査機器の更新: ストロータイプの記録式呼気検査器を国内外全空港※に配備いたします	今年末までに配備
第三者確認ならびに検査結果記録の管理: A)乗務前アルコール検査時の第三者確認を国内外全空港※に拡大致します B)検査結果ならびに確認実施者の記録を管理いたします	2019年1月を目途に開始

※運航乗務員の勤務開始が発生しない空港は除く

(2)運航乗務員以外の航空機の運航の安全に携わる者(客室乗務員・整備従事者・運航管理者)

内容	時期
全航空従事者に対して始業時の酒気確認を実施(日常的な健康管理の一環として実施)	2019年1月を目途に準備が整い次第
航空従事者が所属する全事業所にストロータイプの記録式呼気検査器を配備し、随時検査が可能な体制を構築	

(3)上記以外の運航に関わる作業員(空港構内で車両運転に従事するグループ社員)

内容	時期
車両乗車前のストロータイプの記録式呼気検査器を用いた確認の実施	2019年4月を目途に準備が整い次第

※検査器配備まで当直の監督層が始業時の酒気確認を実施(日常的な健康管理の一環として実施)

以上

■別紙

- ①ANA ウイングス運航乗務員の飲酒に伴う乗務員の交代により運航便を遅延させた件
- ②飲酒に関する措置について(運航乗務員)
- ③アルコールの「単位」について
- ④呼気検査機器について

2018年11月16日

~~2018年10月31日~~

報道各位

全日本空輸株式会社
広 報 部

ANA ウイングス運航乗務員の飲酒に伴う乗務員の交代により運航便を遅延させた件

このたび、ANA ウイングス株式会社の運航乗務員が、前夜の飲酒に起因する体調不良を申し出たため、別の運航乗務員と交代することとなり、乗務予定であった5便の出発遅延を発生させました。

ご搭乗のお客様をはじめ、関係の皆様にご迷惑をおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

ANA グループといたしましては、本事象を重く受け止め、全役職員に対するコンプライアンスの徹底、アルコールに関する教育を一層強化するなど、再発防止に努めてまいります。

1. 影響

2018年10月25日(木)に当該乗員が乗務予定であった以下の便

ANA1762 便(08:10 石垣発沖縄行き)	54分遅延	お客様数 124名
ANA1721 便(09:40 沖縄発宮古行き)	55分遅延	お客様数 118名
ANA1722 便(11:05 宮古発沖縄行き)	56分遅延	お客様数 127名
ANA1725 便(12:40 沖縄発宮古行き)	58分遅延	お客様数 126名
ANA1726 便(14:15 宮古発沖縄行き)	49分遅延	お客様数 124名

※影響便数ならびにお客様人数 合計5便、619名様

2. 当該運航乗務員

機長(40代男性)

3. 経緯

- ・ 前夜 22:00 頃まで石垣市内飲食店にて ANA の運航乗務員と飲食
- ・ 翌朝 06:30 頃、体調不良の為、乗務不可の旨を自ら所属部署に連絡
- ・ 運航乗務員の交代に伴い、乗務予定であった上記5便の遅延が発生

4. 処分

- ①当該運航乗務員 諭旨退職
- ②全日本空輸株式会社 取締役執行役員
フライトオペレーションセンター長 大井 道彰
役員報酬 10%減額 x 1カ月
- ③ANA ウイングス株式会社 代表取締役社長 泉 弘毅
役員報酬 10%減額 x 1カ月

5. 再発防止策

- ・ グループ運航乗務員への飲酒にかかわる規程遵守の再徹底
- ・ グループ全役職員への適正飲酒啓発の展開
- ・ 本日 11/16 付広報メモをご参照ください

以上

お問い合わせ先 : 全日本空輸株式会社 広報部 03-6735-1111

自己管理の強化

検査体制の強化

見直し後

- ・ポータブル型の呼気検査器貸与(全運航乗務員)
- ・アルコール教育プログラムの見直しと再徹底
- ・アルコールカウンセリングをANAグループに拡大展開
- ・社内注意喚起文書の発出

乗務開始時刻
12時間前

「12時間前まで」

運航規程に規定されている

「2単位まで」

運航管理規則集
アルコールチェック要領に格上げ

- ・羽田空港：
第三者確認を追加
- ・羽田以外の全世界の空港
ストロータイプ検査器の導入
⇒ 全空港統一された基準へ
ストロータイプ検査器
第三者確認/検査結果記録の管理

乗務前
アルコール検査
(出社時刻)

乗務開始時刻
(便出発時刻)



乗務



厳正に処分

運航規定・規則

時間:12時間前まで

量:2単位まで(明文化)

見直し前

- ・アルコール教育の実施
- ・アルコールカウンセリング(ANAのみ)

「12時間前まで」

運航規程に規定されている

「2単位まで」

一時的な
本部長通達

- ・羽田空港：
ストロータイプの検査器で検査
- ・羽田以外の全世界の空港：
バータイプの検査器で検査
+ 第三者確認



乗務



厳正に処分

運航規定・規則

時間:12時間前まで

量:なし

アルコールの「単位」について

アルコール1単位＝純アルコール20g を含む酒類のおおよその量

●ビールであれば

500ml缶
×1本



または



中ビン
×1本

●日本酒であれば



1合 (180ml)

●ウイスキー・
ブランデーであれば



ダブル×
1杯 (60ml)

●ワインであれば



小グラス×
2杯 (200ml)

●酎ハイであれば



350ml缶×1本

●焼酎であれば

(35度): 70ml



または



(25度): 100ml

* アルコールの代謝スピードには個人差がありますが、平均すると体重60-70Kgの人で、1時間に7gとされています。

呼気検査機器について

平成30年11月16日
ANA広報部

羽田空港



【図(1)】



【図(2)】

東海電子 ALC-PROII
ストロータイプ/記録あり(PC接続)

AKX/AJXの羽田空港出社時は
ANAとは出頭場所が違う為、
TANITAの検査器を使用

※別紙④内の画像は
図(1)～(3)は、以下URLよりダウンロード可能です。
URL: <http://www.ana-press.com/2018-11-16-01/>
(ダウンロード期限は2018年11月30日17:00です)

図(4)(5)は、以下各社のサイトをご参照ください。
<http://www.tanita.co.jp/content/alcohol/fc1200/index.html>
<https://www.figaro.co.jp/product/feature/falc11-21.html>

その他全空港(羽田以外)※

2019年
1月～



【図(4)】

TANITA FC-1200
ストロータイプ/記録あり(PC接続)



現在



【図(3)】

光明理化学工業 PAC-200S
バータイプ/記録なし

全運航乗務員貸与用



【図(5)】

フィガロ技研 FUGO smart
ストロータイプ/記録なし

その他概要説明

参考): 機器概要

	TANITA FC-1200	フィガロ技研 FUGO smart
寸法	145(H)X72X33(D)mm	108(H)X60(W)X23(D)mm
重量	約212g	約120g
検知範囲	0~0.25mg/l	0~1.00mg/l

※羽田空港以外設置空港

国内外合わせて、運航乗務員の出頭(勤務開始)がある空港は76か所あり、そのすべての空港にストロータイプの記録式呼気検査器を配置(国内35空港、海外41空港)